



NADA DANE
Vol.5 2026

はし

はじめに

旅先で海に沈む夕陽を眺めるように、古い街並みを味わうように、少し暮らしの速度を緩めると、なにげなく見ている日常風景が特別な瞬間に感じられます。それぞれのシーンは見慣れていてとても「ふつう」だけど、歴史や自然、文化など、その場所のもつ「らしさ」とつながると、世界中のどこにもないここだけの風景が立ち上がってきます。当たり前の方こうに見えてくるもうひとつの景色。

「なだだね」は、見過ごしがちな、あるいは見過ごされている灘のまちの風景を、いろんな視点で眺めながら「ふつうの風景」を味わうフリーペーパーです。

今回のテーマは「橋」。橋がつなぐ景色をご紹介します。

はし

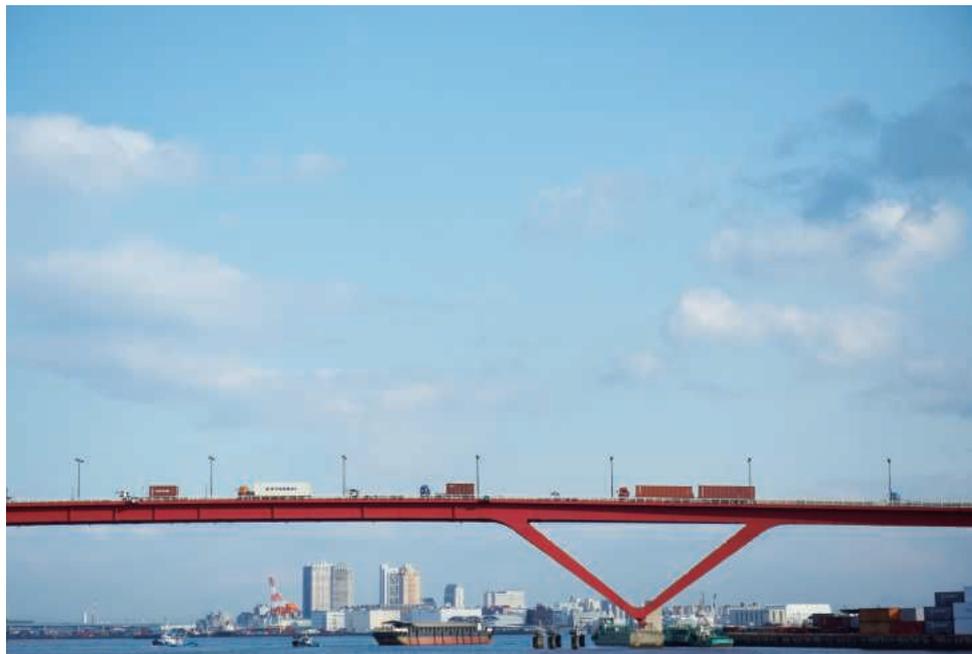
橋

おもに水流・溪谷、または低地や他の交通路の上にか
け渡して通路とするもの。転じて、かけわたすもの。
仲介。媒介。



港にかかる橋

港にかかる長大橋は、港湾都市神戸のシンボルとして当時最先端の技術で建設された。



灘浜大橋

1993年(平成5)に完成。灘浜東町と摩耶埠頭の間に架かる長さ400メートルの橋。V脚ラーメン橋としては当時世界最長。ハーバーハイウェイの一部で、水平方向に伸びる赤い橋げたとV字橋脚のシルエットが青空に映える。1992年(平成4)に土木学会田中賞受賞 [MAP ①]



摩耶大橋

摩耶埠頭と新港東埠頭をつなぐやじろべえ型のつり橋（斜張橋）。神戸港最初の長大橋として 1966 年（昭和 41）に完成。特撮テレビ番組「ウルトラセブン」のロケ地にもなった。歩いて渡ることもできる。2022 年（令和 4）に土木学会選奨土木遺産に認定。[MAP ②]

山にかかる橋

谷を渡る、風のかけ橋。
人や車だけではなく動物も渡る。



新六甲大橋

六甲川の谷間を渡る約 330 度（4 分の 3 回転以上）のループ構造を持つ特徴的な高架橋。山側へ向かうにつれて高度を上げていく。1966 年（昭和 41）に建設工事が行われ、六甲有料道路へつながる交通の要衝を担っている。[MAP ③]



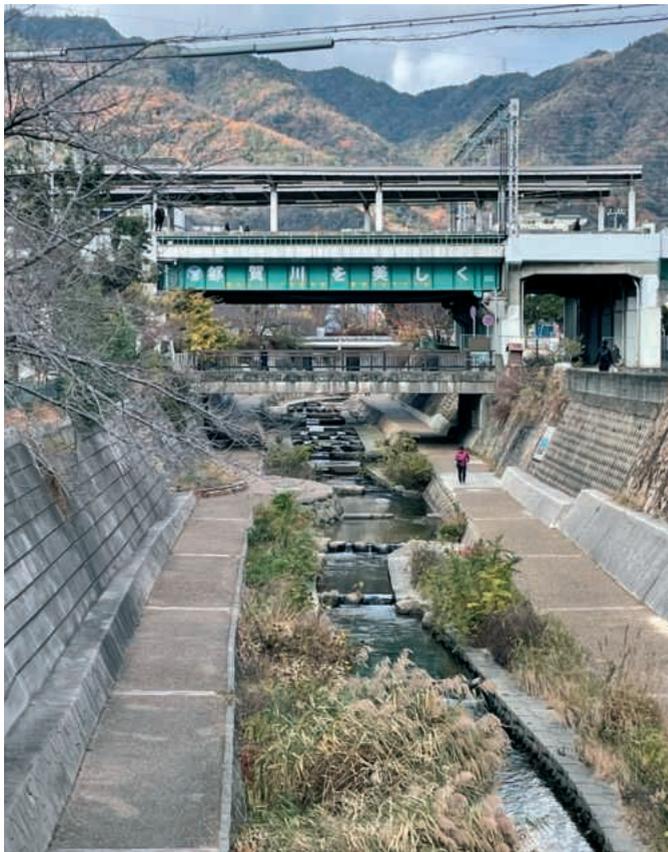
牧場橋

六甲山牧場の東エリアと南エリアをつなぐ吊り橋。1968年（昭和43）に完成。人だけではなく園内の羊も渡る。六甲山牧場は1950年（昭和25）に畜産振興の目的で開設、1976年（昭和51）から観光牧場として一般開放され今年50周年を迎える。

[MAP ④]

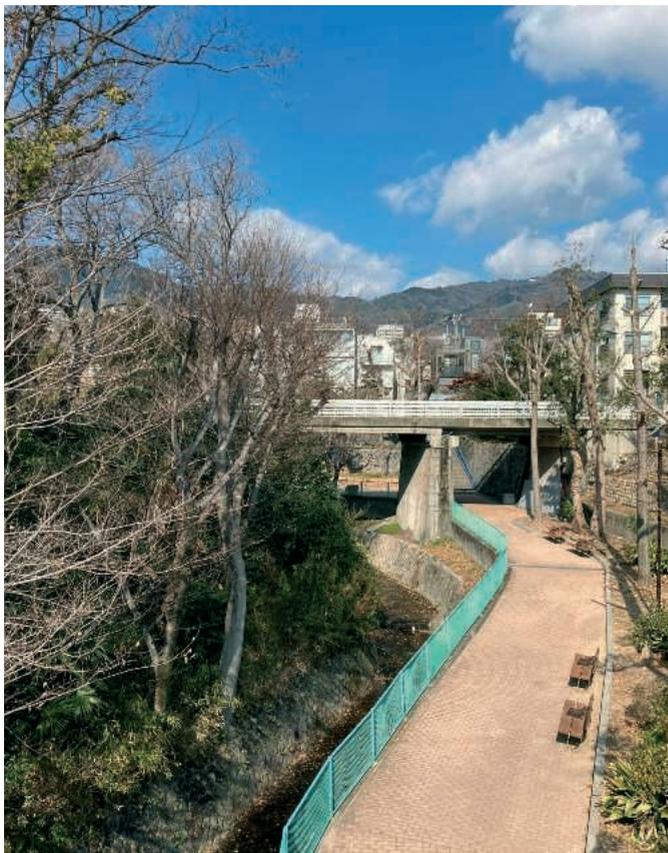
川にかかる橋

六甲摩耶から流れ出す川は短く流れが急で、大雨時に水位が上がりやすいため広い河道断面になる。



阪神大石駅

阪神大石駅は1905年(明治38)阪神本線の開業と同時に開業。1967年(昭和42)高架化によって100メートルほど北の現在地に移転した際、都賀川をまたぐ駅になった。橋げたに「都賀川を美しく」とペイントされているのは鉄道の橋としては珍しい。[MAP ⑤]



楠橋

六甲台から流れる高羽川は上流では深い谷のようになっている。小さな橋が多いが、阪急の南には楠橋（28m）、寿橋（18m）という2つの大きな橋が架かる。橋の下には高羽川公園の遊歩道があり、街なかでは珍しい渓谷感が味わえる。[MAP ⑥]



第三篠原本町橋

都賀川の上流、杣谷川に架かる幅90センチほどの鉄製の人道橋。1970年（昭和45）に供用開始。欄干に神戸市章のようなデザインがほどこされている。かつて橋の西側には神戸市長公舎があった（現在は分譲住宅が建っている）ので、それが所以だろうか。

[MAP ⑦]



岩屋橋

国道 2 号の下を流れる観音寺川に架けられた橋。3.8メートルの橋長に
対して幅が 27.6メートルもあり、橋とは気づかないが、地上部のコンク
リート製の欄干で橋ということがわかる。1926年(昭和元)に供用開始。
今年 100 年を迎える。

[MAP ⑧]

列車が渡る橋

灘区は東西方向に3つの鉄道が走り、道や川と交差する。トンネルのような通路でも鉄道から見ると橋。



福角川橋梁

鉄道の橋には旧字名が残っていることが多い。福角は福住の旧称。人が通る通路の横には水路があり、かつては福角川と呼ばれていたらしい。南と北で高低差があり北側の階段を降りると、頭上を阪急電車が通過し、迫力満点。

[MAP ⑨]



庄界架道橋

1907年（明治40）に東灘貨物駅（現在のJR摩耶駅）と神戸港を結ぶ日本初の臨港線が開設された。2003年（平成15）に廃止され、軌道跡はHAT神戸までの遊歩道になった。中央区との区界に架かる架道橋の橋脚には古いレンガが残っている。古くから境界であったことが橋の名前に残る。[MAP ⑩]

線路にかかる橋

鉄道をまたぐ橋。明治以降、東西の交通網が発達していった。それにともなって町と町をつなぐ橋が架けられた。



阪神第一陸橋

1933年（昭和8）それまで地上を走っていた阪神電車は岩屋から地下で三宮に乗り入れるようになった。それにともない軌道をまたぐ橋が架けられた。阪神第一陸橋はその一つで、中央が盛り上がった太鼓橋。以前は石の舗装だったが近年アスファルトになり、風情がなくなったのが残念。親柱（橋の両端の柱）に当時のデザインが残る。[MAP ⑩]



灘のタカバシ

1907年(明治40)、現在のJR摩耶駅付近から分岐した神戸臨港線をまたいで造られた橋は「灘のタカバシ」の名で親しまれた。当時は赤レンガの橋で、風格ある姿が注目を集めた。軌道跡にはマンションが建ち、古い線路がモニュメントとして残されている。近くのJR神戸線をまたぐ橋は灘橋というのが正式名称。[MAP ⑫]

横断歩道橋

歩行者の安全や利便性のため、車道や鉄道をまたぐように架けられた人や自転車が通行する橋。



神戸大学六甲台第1キャンパスと鶴甲第1キャンパスをつなぐ歩道橋

交通量の多い兵庫県道 95 号灘三田線に架けられた橋。横断歩道橋は、人道橋の一種で、車道または鉄道を跨ぐように架けられた歩行者・自転車専用の橋。昭和 30 年代の高度経済成長期においてモータリゼーションが進展し、交通事故から歩行者を守るために設置されるようになった。

[MAP ⑬]



灘駅ふれあい橋

駅の一部のように見えるが実は歩道橋に分類される。2009年（平成21）にJR灘駅が橋上化された際に、南北の行き来が自由にできるように設置された。橋ができる前は改札で通行証を受け取り、構内の跨線橋を渡って駅の中を通り抜けることができた。

[MAP ⑬]

小さな橋

小さな川や水路と住宅や駐車場の間に架けられた橋ではない橋。
名前もないような通路が無数にある。



小橋

道路法では橋は長さが2メートル以上の構造物を指す。小さな川には道路と玄関や駐車場の間に2メートル以下の溝橋や小橋が架けられることもある。渡るという機能だけでなく、さまざまな素材やデザインが景観のアクセントになっている。

橋のあかり

大きな橋には照明がつけられることが多い。普段気にも留めない橋が夜になると存在感を増す。



上岸地橋 [MAP ⑮]



都賀川新橋 [MAP ⑯]



石屋川橋 [MAP ⑰]

橋の照明

橋の両端に設けられたあかりは、橋の入り口を照らす安全機能に加え、夜間の景観を彩るシンボルの役割を果たす。歴史的な意匠の復元やクラシカルな演出など、地域の歴史を反映したデザインで、街の魅力を高める重要な要素にもなっている。

橋の痕跡

街の移り変わりによって役目を終えひっそりと余生を過ごしている、かつて架けられた橋の痕跡。



くすのきはし跡

神戸高校の東を流れる観音寺川沿いの道は、春は桜が舞いカップルがよく利用したことから通称ロマンス坂と呼ばれている。正門へ伸びる地獄坂と対照的な穏やかな道。川沿いには凶南寮、鳳雛寮があった。川には橋が架かっていたが、今は暗渠になり橋の名前が刻まれた石碑のみが残る。

[MAP ⑩]



月見橋跡

1931年(昭和6)に現在の新六甲大橋下交差点近くから、山上の六甲郵便局付近までの間に六甲登山架空索道(六甲登山ロープウェー)が営業を開始。山上駅と山上道路の間に架けられた橋が遺跡のように残っている。ロープウェーは戦時中の1944年(昭和19)に不要不急路線として廃止。六甲山開発史の貴重な遺構。

[MAP ⑩]

摩耶山
④

六甲山
③⑬



表紙と裏表紙の写真②

②

①

灘だいたいマップ

今回の撮影スポットのだいたいの場所です。
あえて細かい場所は示していません。
ぜひ、みなさんと確かめに行ってください。

編集後記

- ▼長短大小太細の、さまざまな橋がナダの内外をつないでいるのだなど。
- ▼橋の存在を神戸の町中で感じる場面は全体として限定的だけど、今回見廻すと長大橋から勝手橋まで、あっちこっち(丁稚か?)というくらい橋を目にした。「灘に橋、あり」を感じた今号でした。
- ▼紙幅の関係で全てを紹介することはできませんでしたが、まだまだ魅力的な橋があります。
- ▼街の中に存在する「はし」は形や大きさも様々で、どれも個性豊かでした。
- ▼「はし」がテーマとなり、いつも歩いている「はし」も特別なものに感じました。

参考資料

- 「灘百選～灘の魅力再発見～」(灘区民まちづくり会議)
- 「なだ 灘神戸市編入五十周年記念誌」(灘三ヶ町村神戸市編入五十周年記念行事協賛会)
- 「灘の歴史」(灘区 80 年史編集委員会)

協力

神戸市建設局東部建設事務所
神戸市経済観光局観光企画課

なだだねバックナンバー

- Vol.1「みち」(2022年発行)
- Vol.2「みず」(2023年発行)
- Vol.3「いし」(2024年発行)
- Vol.4「あな」(2025年発行)

PDFはこちら



なだだね Vol.5

2026年3月発行

企画・編集 灘百選の会
発行 神戸市
問合せ 灘区役所地域協働課
灘区桜口町 4-2-1
TEL 078-843-7001
FAX 078-843-7034

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

